

資料2 英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用について 基礎資料

試験名・団体名		目的・ねらい		活用について	
試験名	実施主体	主な目的	出題意図	活用例	国際通用生 ①試験が実施されている国数 ②多く活用されている地域・大学 ③海外の資格・検定試験団体との連携情報
Cambridge English ケンブリッジ英検	ケンブリッジ大学英語検定機構 (英国ケンブリッジ大学の一部門であり、英語の学習や指導に関する資格試験を提供する評価機関。非営利組織)	学習者が実生活のさまざまな状況において、コミュニケーションのために英語をどのように使うことができるかを評価する	<思考力・判断力・表現力> 「話す」テストでは、イラストや写真について受験者自らの経験や知識を活用しながら、制限時間内で論理的に意見をまとめる <2技能統合型> (ペアで対面式ということで)相手の意見を「聞く力」も必要。論理的に首尾一貫性のある会話をしながら、自分の意見を提案したり、建設的に相手の同意や意見を引き出しつつ、二人で結論を導くスキルをみる。積極的に会話を進めようとしているか等、リアルなコミュニケーションに必要なスキルが試される。 ・サンプル問題URL (PET for Schools/レベルB1): http://www.cambridgeenglish.org/exams/preliminary-for-schools/how-to-prepare/	・アイルランド、豪州の査証申請に活用可能 ・大学・企業・省庁など20,000を超える世界中の機関により、英語力の証明としてケンブリッジ大学英語検定機構の試験は認定、活用されている	①世界130か国で実施 ②主に英国、欧州、次にオーストラリア、ニュージーランド、カナダ ③CaMLA (ケンブリッジ・ミシガンテスト) 米国ミシガン大学と提携、米国英語に対応。OET(医療専門英語試験) 豪州ボックスヒル・インスティテュートと提携、医療従事者用英語に対応
実用英語技能検定	公益財団法人 日本英語検定協会	英語圏における社会生活(日常・アカデミック・ビジネス)に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する	<思考力・判断力・表現力> 社会性のあるトピックに関する質問に対して技能としての英語のみならず、受験者が日頃の生活や学習の中で身につけた知識をも活用して意見を述べ、その根拠を具体的な根拠を元に議論を展開することが求められる <技能統合型> カードに書かれた英文を読み、内容に関する質問を聞いたうえで、英語で意見を述べる <情報活用能力> カードに書かれたイラスト等の非言語情報を整理・理解し、時系列や聞き手を意識しながら説明をする サンプル問題URL: https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/	・入試における活用(2015年3月優遇校調査延べ数) 大学419校、短大208校、高専9校、高校817校、中学87校 ※合計1,540校 ・単位認定による活用(2015年3月優遇校調査延べ数) 大学246校、短大56校、高専44校、高校745校 ※合計1,091校 ・海外における活用は右記②参照	①約世界50か国(公開会場が3か所、準会場が130か所)で実施 ②アメリカ、オーストラリア、カナダ等、約370の海外の大学等、そしてオーストラリア6つの州のうち5つの州の留学生受け入れ可能な全州立高校約570校において、留学の際の語学力証明として認定されている ③Academic Forum on English Language Testing in Asiaにて、6地域7団体とアジアにおける英語テストの課題共有と質の向上を目的に連携。英国の独立研究機関CRELLAIに英検の妥当性検証を連携して実行している
GTEC CBT	Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人 進学基準研究機構(GEES)と共催	英語を使用する大学で機能できる(アカデミックな)英語コミュニケーション力を測る	<聞く>学生生活での会話や講義からの出題で、課題解決に必要な情報を「聞く力」を測定 <話す>会話応答力から自分の意見を述べる力まで幅広く「話す力」を測定 <読む>サンプル問題学生生活で遭遇する情報や、講義内容などの出題で「読む力」を測定 <書く>バリエーション豊かな出題で多角的に「書く力」を測定※資料を読み取り意見を書くなど2技能統合型の出題あり	GTEC CBTのスコアを入試に活用することが可能。 参考URL: http://www.benesse-gtec.com/cbt/about/list.html	①ELS Educational Servicesを通じての北米を中心とした大学進学を想定
GTEC for STUDENTS	Berlitz Corporation ELS Educational Services	英語によるジェネラルな状況におけるコミュニケーション能力を測る	<聞く>即応性、情報選択、要点理解など多角的に「聞く力」を測定 <話す>リアルな場面設定で、音読から意見展開まで幅広い「話す力」を測定 <読む>特に速読的な情報検索、概要把握する「読む力」を中心に測定 <書く>与えられたテーマに対して自分の考えを自由記述することで「書く力」を測定	学校における技能別の指導検証のために活用することが可能。 GTEC for STUDENTSのスコアを入試に活用することも可能。 参考URL: http://gtec.for-students.jp/gtecmag/gtecmag.htm	
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、IDP IELTS オーストラリア、ケンブリッジ大学英語検定機構 (日本では公益財団法人 日本英語検定協会が事務局として実施運営・広報活動を実施)	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する	<批判的思考・論理性> ・提示されている論点に対して、批判的な視点をもって論証できるかどうか問われる ・英語で論理的に意見を展開し、相手の理解が得られるように表現することが求められる <思考力・判断力・表現力> ・自身の経験や知識を基に、提示された課題に関係する事象や論拠を選択し、適切な表現をつかって効果的に英語で発信できるかどうか求められる <客観性・情報理解力> ・表やグラフ等で表された情報を理解し、客観的に英語で描写する力が求められる サンプル問題: http://takeielts.britishcouncil.org/prepare-test/free-practice-tests	【世界】世界145か国、約9,000の大学・企業・政府機関等で留学や移住の際の語学力証明として活用 (右記参照) 【日本】全旧帝大を含む全国主要50大学にて特別会場実施受験による留学促進として活用(一部変則方式) ・全国主要約50大学にて入学者選抜要件として活用 ・東大・ICU・都教委において語学力アセスメントとしての活用	①世界+140の国と地域で実施 ②世界で約9,000の機関(政府移民局、国境局等を含む)。EU諸国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドは特にIELTS志向が強いが、近年アメリカ合衆国での認知が高まり、現在3,000以上のアメリカの機関がIELTSを受け入れている
TEAP	公益財団法人 日本英語検定協会	EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する	<思考力・判断力・表現力> アカデミックなトピックに対する4技能にわたる英語の運用能力を問うだけでなく、文章の構成や図表との関連を考えながら読み解いたり、受験者自身の知識を活用しながら論理的に意見を述べる・議論をする能力が求められる <技能統合型> 表・グラフを読み、その説明を聞きながら、関連する質問に解答する 英文と表・グラフを読み、内容に関するテーマに関して解答を書く <情報活用能力> 表・グラフ等の非言語情報と英文から得られる情報を統合して理解し、その内容を要約したうえで自分の意見をまとめて書く サンプル問題URL: http://www.eiken.or.jp/teap/construct/	2016年度入試においては、上智大学、青山学院大学、東京理科大学、立教大学、関西学院大学、関西大学、立命館アジア太平洋大学、中央大学等の入試で活用。 2017年度入試から、早稲田大学、明治大学等が採用を発表しており、今後増えて行く予定。 一部入学直後、及び習熟度検証のためのプレースメント及びアチーブメントテストとして活用有。	③言語テストに関する英国の独立研究所(CRELLA)に検証を依頼し、これまで開発された国際的通用性の高いテストと同様の設計手法に基づき問題作成や分析等を行っている
TOEFL (TOEFL iBT)	Educational Testing Service (ETS) (日本では国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部がTOEFLテスト日本事務局として広報・周知活動を実施)	高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。	テスト問題は全てアカデミックな内容。なおかつ大学で英語を用いて学業を行ううえで、学部・院生が頻繁に求められる言語使用タスクに基づいて問題を作成。(この言語使用タスクは優れた学業成績を収めるために重要) <思考力・判断力・情報分析力・表現力2~3技能統合力> Speaking/Writingセクションにおいて、Integrated Taskという同時に複数の技能を測定する問題(インプットとアウトプットを同時に測定)が出題される (例)テキストを読み、関連する会話/講義を聞いて、問題に解答(話す・書く) サンプル問題(1) http://www.ets.org/jp/toefl/ibt/prepare/toefl_interactive_sampler (2) http://www.ets.org/toefl/ibt/prepare/quick_prep/	(海外)・9,000以上の海外大学・大学院、その他機関において主に入学選考基準として利用 ・オーストラリア査証申請に活用可能 ・医療機関や認可機関: 専門資格の認定に使用 (日本)・大学における入試優遇・単位認定(2015年のスコア利用状況のアンケートでは回答大学549校中259校(入試)/514校中207校(単位)が利用と回答) ・高校教員採用時の優遇事例(年のアンケート調査では46都道府県・政令都市教育委員会でもスコア利用・優遇等の回答あり) ・外務省 国際機関人事センター派遣制度の選考基準 ・人事院 国家公務員採用総合職試験 等	①130か国以上、9,000以上の大学や機関で活用 ②英語圏(北米、オーストラリア、ニュージーランド等)での入学選考基準に活用。非英語圏(ドイツ、オランダ、トルコ、韓国等)での入学選考基準に活用
TOEFL Junior Comprehensive	Educational Testing Service (ETS) (日本では株式会社グローバル・コミュニケーション&テスト(CG&T)が事務局として実施運営・広報・普及活動を実施)	英語を母国語としない中高生の英語運用能力を世界標準で評価する	<思考力・判断力・表現力>【独立型】Listening/Reading 課題文の情報を使い、最も論理的に関連のある(しかし文中に明記されていない)内容を選択する問題などがあり、単に英文を理解するだけでなく、思考力・判断力が求められる https://toefl.jr.caltesting.org/sampleQuestions/TOEFLJr/1-dodder.html 【統合型】 Listen-Speak/Listen Write 論じられている内容を正しく把握し、要約し、決められた時間内で発信。論じられているアカデミックな内容を把握し、要約を行い、文章にて発信する問題など https://toefl.jr.caltesting.org/sampleQuestions/TOEFLJr/w-maunakea.html	2015年2月に実施したアンケート調査では、18大学において4技能のTOEFL Junior Comprehensiveを入試の優遇条件として採用と回答。	①2014年より開始され、現在世界8か国にて実施されている。実施国の数は拡大中(2技能のTOEFL Junior Standardについては既に50か国以上で実施されている)
TOEICテスト	Educational Testing Service (ETS) (日本では(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会が事務局として実施運営・普及・広報活動を実施)	一般からビジネスまで幅広い英語によるコミュニケーション能力(「聞く、読む」能力)を測定する。	<聞く>明確に述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できる、あるいは詳細が理解できる。 <読む>文章の中の具体的な情報を理解できる、情報をもとに推測できる、複数の情報を関連付けることができる。 サンプル問題: http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/tests/sample01.html	採用学校897校中600校(大学・短大・高専)が入学試験に活用(H26年度実績)。企業における海外出張者選抜、昇進・昇格基準、大学における推薦入試・単位認定基準の指標として用いられているほか、英語研修や授業の効果測定、自己啓発の目安として幅広く活用	①TOEICプログラム(TOEICテスト・TOEIC Bridge・TOEIC S&W)は世界150か国、1万4千団体が活用。年間約700万人が受験(H26実績)
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	Educational Testing Service (ETS) (日本では(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会が事務局として実施運営・普及・広報活動を実施)	国際的な職場環境において、効果的に英語でコミュニケーションするために必要な「話す、書く」能力を測定する。	<話す>ネイティブスピーカーや英語に堪能なノンネイティブスピーカーに理解しやすい言葉で話すことができる。日常、業務上必要なやりとりを適切に行うことができる。筋道の通った継続的なやりとりができる。 <書く>適切な語彙・語句を使用し、文法的に正しい文を作成できる。情報、質問、指示などを伝える文章を作成できる。理由、根拠などを示しながら自分の考えを相手に伝える文章を作成することができる。 サンプル問題: http://www.toEIC.or.jp/sw/about/tests/sampletest.html	国家試験の通訳案内士試験でTOEICスコア840以上、TOEICスピーキングスコア150以上、TOEICライティングスコア160以上が英語筆記試験免除対象となっています。大学・企業・団体の発信力測定に活用	①TOEICプログラム(TOEICテスト・TOEIC Bridge・TOEIC S&W)は世界150か国、1万4千団体が活用。年間約700万人が受験(H26実績)

資料2 英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用について 基礎資料

検定料・場所・回数							
試験名	受験人数	難易度(CEFRとの関係)	語彙数	目標言語使用領域	実施回数・会場数	受験料	受験料の減額・補助・助成の支援制度
Cambridge English ケンブリッジ英検	世界で年間250万人 (2014年度実績)	CEFRレベル:A2-C2 (なお、A2未満のレベルについては、国際児童英検のスターターズがPre-A1を、ムーバーズがA1を測定)	A1(国際児童英検:スターターズ) 800語程度 A2(KET) 1,500語程度 B1(PET) 3,000語程度 B2(FCE) 5,000語程度 C1(CAE) 6,500語程度 C2(CPE) 7,000語程度 (English Vocabulary Profile Wordsに基づいてカウント)	[Preliminary(PET) CEFR レベルB1] 複雑でない指示や公共放送を聞いてその要点を理解するなど、日常生活で遭遇する可能性のある言語	・日本では2~3回/年(年間実施回数は試験センターにより異なる) ・試験センターのある北海道、長野、東京、兵庫、岡山、福岡のほか、愛知、大阪、広島、鹿児島等の計10会場	【参考価格】2014年8月~2015年12月 KET(A2) 9,720円~ PET(B1) 11,880円~ FCE(B2) 19,980円~ CAE(C1) 22,140円~ CPE(C2) 25,380円~ ※実施する試験センターにより異なることあり	・学校団体での受験は、最少催行人数の規定や会場提供を条件に減額実施は可能(文部科学省の「英語教育関連事業に係る研究校・研修協力校を対象とした特別価格」を提供する試験センターは今年度原則15%程度の減額可能) ・問い合わせ先:ケンブリッジ大学英語検定機構日本支部 e-mail: InfoJapan@cambridgeenglishreps.org
実用英語技能検定	約263.5万人(H26実績)	CEFRレベル:A1-C1 C1⇒1級 B2⇒準1級 B1⇒2級 A2⇒準2級 A1⇒3級、4級、5級	[2級] 4,000語程度 (BNC<British National Corpus>)	[2級] 指導者を伴う言語使用・学習環境において遭遇する可能性の高い社会性のある内容(日常・アカデミック・ビジネス)に関する言語	・3回/年(6~7月、10~11月、1~2月) ・全国約17,400会場(公開会場230都市400会場、準会場 離島等を含む全国17,000会場)	・1級:8,400円 ・準1級:6,900円 ・2級:5,000円(4,600円) ・準2級:4,500円(4,100円) ・3級:3,200円(2,800円) ・4級:2,100円(1,600円) ・5級:2,000円(1,500円) ※括弧内は、準会場受験の場合	・英語担当教員専用特別検定料制度(教員特別検定料(税込)) 1級:4,000円(定価:8,400円)、準1級:3,000円(定価:6,900円) ・小学校教員対象 英検検定料助成(教員特別検定料(税込)) 1級:4,000円(定価:8,400円)、準1級:3,000円(定価:6,900円) 2級:2,500円(定価:5,000円) ・研究校/研修協力校、SGH指定校に該当する学校に対する助成(特別検定料(税込)) 1級:5,000円(定価:8,400円)、準1級:4,000円(定価:6,900円) 2級:3,000円(定価:5,000円)、準2級:2,500円(定価:4,500円) 3級:2,000円(定価:3,200円)、4級:1,000円(定価:2,100円) 5級:1,000円(定価:2,000円) 問い合わせ:公益財団法人 日本英語検定協会 英検サービスセンター TEL:03-3266-6581
GTEC CBT	非公表	CEFRレベル:A2-C1	3,000語~6,000語程度 (タスクにより異なる)	大学生が経験する日常生活における言語や大学の講義などのアカデミックな言語	・実施回数は3回/年(H27予定) ・全国47都道府県・57会場(H26実績)	9,720円(税込)	
GTEC for STUDENTS	約73万人(H26実績)	CEFRレベル:A1-B2 Advanced=高校2年~3年 Basic=高校1年~2年 Core=中学2年~中学3年	Advanced:高校英語必修科目の教科書レベル Basic:中学3か年の教科書レベル Core:中学1~2年の教科書レベル ※上記に加えて、日常生活で頻出の重要語いも含む	高等学校や中学校の授業で学んだ英語を「実際に使う」場面を想定したジェネラルな言語	・検定日は7月・12月 ・学校会場	3,080円(税込) ※Speaking含む場合は、5,040円(税込)	文部科学省・英語教育強化地域拠点事業における拠点校、及び外部専門機関と連携した英語指導力向上事業における研修協力校においては、1,640円(税込)に減額補助。※Speakingテストは除く
IELTS	約3.1万人(H26年度実績) ※全世界では140カ国、約250万人(2014年度実績)	CEFRレベル:A2-C2	5,000~6,000語程度 (BNC<British National Corpus>)	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業した場合に遭遇する可能性のある言語	・35~40回/年(東京では年約30回実施。大阪、京都、名古屋、福岡では毎月実施) ・全国18都市に公開会場 ・特別会場として、全国約50の主要大学・教育機関においても実施	25,380円	・教員助成制度利用の場合、20,000円に減額で実施 ・問い合わせ先:教育事業部国際課 専用URL: http://www.eiken.or.jp/ielts/group/teacher/
TEAP	約1万人(H26年申込実績)	スコア→CEFR R 20~100⇒Below A2~B2 L 20~100⇒Below A2~B2 W 20~100⇒Below A2~B2 S 20~100⇒Below A2~B2	2,000~5,000語程度(タスクにより異なる) (BNC<British National Corpus>)	大学に入学後、指導・学習における場面で遭遇する可能性の高いアカデミックな内容に関する言語	2015年度 ・3回/年(7月、9月、12月) ・全国11都市約30会場 ※会場については今後拡大予定	・RL:6000円 ・RLW:10,000円 ・RLSW: 15,000円	検討中
TOEFL (TOEFL iBT)	年間受験者数は非公表。ETSの発表では1964年のTOEFLテスト実施開始から累計3,000万人以上が受験。また日本においては、2000年10月のコンピューター試験版(TOEFL CBT)導入以降、100万人以上が受験。	CEFRレベル:B1-C1	<読む> 3,000語で90.45%、5,000語で95.37% <聞く> 3,000語で96.22% をカバー (BNC/COGA word-family lists) <第1回連絡協議会資料より>	大学生生活や大学での授業等のアカデミックな環境にて使用される言語。TOEFL iBTのタスク・デザインの基礎となったtask statementsは、多くの学術分野で頻りに英語で遂行する必要がある、かつ学業成績においても重要性が高いことが、北米の大学の教員・学生へのアンケート調査で確認されている。	・40~45回/年 ・90会場(テスト実施日により会場数は異なる)	・通常申込 US230 ^円 。(2015年9月現在) ・年により価格改定を行う場合有。改定の場合7月に改訂される ・受験料自体の表示はドル表示であるが、支払時に日本円表記となるオプションあり ・画により受験料は異なる:US165 ^円 ~US300 ^円 。	・英語教員対象特別受験制度あり。学校教育法第1条に規定された小学校教員・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校・高等専門学校の英語教員(常勤のみ)は21,000円で受験可能(2015年9月現在)
TOEFL Junior Comprehensive	非公表	CEFRレベル:A2~B2	3,000語程度 (98%の単語がセンター試験(2006年以降)に出現。グローバル・コミュニケーション&テストニング独自調査(2014年))	社会・個人との関係構築・維持のためのコミュニケーション能力、学生生活や授業の情報を適切に把握・共有するための能力、アカデミックな内容を学ぶために必要な能力	・2~3回/年 ・現在、受験者数に応じて、47都道府県、110都市、170会場のCBT会場の準備が可能	公開テスト 9,500円(税込) 団体特別受験割引制度あり	学校内等で実施する団体受験については、団体割引価格:2015年12月までは特別価格¥6,640(税込)で提供 問い合わせ:03-6836-0125
TOEICテスト	国内年間約240万人が受験(H26年度実績)。 高校・大学・団体・企業約3,400団体が活用(H26年度実績)。 ※全世界では150カ国	CEFRレベル:A1-C1	4,000語以上 (外部リサーチャーが独自に行った調査結果からの推計値)	日常生活から働く場面まで頻りに使用されている言語	【公開テスト】 ・10回/年(受験地による) ・最大256会場(実施回による)	【公開テスト】 5,725円(税込) 【IPテスト(団体特別受験制度)】 4,155円(税込)	【公開テスト】・レポート受験割引:インターネット上でTOEIC公開テストの受験申込をすると、1年後のTOEIC公開テストを通常価格5,725円(税込)のところ、割引価格の5,092円(税込)で申込可能(団体一括受験申込の場合を除く)・団体一括受験申込(賛助会員価格)4,645円(税込)<10名以上の一括申込み> 【IPテスト(団体特別受験制度)】・賛助会員価格 3,075円(税込)<10名以上の一括申込み>
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	国内年間約2.4万人が受験(H26年度実績)。 高校・大学・団体・企業260団体が活用(H26年度実績)。 ※全世界では25カ国	CEFRレベル:A1-C1	N/A	日常生活から働く場面まで頻りに使用されている言語	【公開テスト】 ・24回/年(受験地による) ・最大30会場(実施回による)	【公開テスト】 10,260円(税込) 【IPテスト(団体特別受験制度)】 9,050円(税込) ※IPテストではスピーキング/ライティング個別に受験の場合、各6,170円(税込)	【公開テスト】 ・団体一括受験申込(賛助会員価格)9,180円(税込)<5名以上の一括申込み> 【IPテスト(団体特別受験制度)】 ・賛助会員価格 7,970円(税込)<5名以上の一括申込み> ※IPテストではスピーキングテストのみ/ライティングテストのみを個別に受験する場合、それぞれ5,090円(税込)<各テスト5名以上の一括申込み>

資料2 英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用について 基礎資料

				評価・フィードバック
試験名	実施方法・試験時間	出題形式	成績の表示方法 ①点数(スコア) ②グレード/階級/CEFRレベル 等	評価基準
Cambridge Englishケンブリッジ英検	<聞く>ペーパー <話す>面接 <読む>ペーパー <書く>ペーパー [試験時間] PET(CEFR: B1) 2時間12分、KET(CEFR: A2) 1時間50分 <話す>以外はCBT(PC)あり。 日本初のCBT(PC)試験センター誕生、今後学校を会場に実施予定。	・レベルは、KET(A2)からCPE(C2)まで5段階。KET,PET,FCEは中高生対象の「フォー・スクールズ」シリーズあり <聞く>全てのレベルでマークシートと記述の両形式で解答 <話す>ペア面接。KET(約8分)～CPE(16分)と次第に増 <読む>KET(A2)とPET(B1)のみマークシート形式。FCE(B2)以上はマークシートと記述の両形式で解答 <書く>全てのレベルで記述式。語数がKET(25-35語)～CPE(280-320)へと次第に増	①総合評価スコア<Cambridge Englishスケール(80～230点、1点刻み)>および技能別スコア(80～230点、1点刻み)【2015年1月よりCPE(C2),CAE(C1),FCE(B2)に導入、PET & KETについては2016年2月以降導入予定】 ②(1)3段階で表される合格グレード、(2)CEFRレベル(A2～C2)、(3)(FCE以上の場合)英国資格指標(NQF)のレベル URL:http://www.cambridgeenglish.org/jp/images/183109-page6_certificate.pdf	<読む>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <聞く>記述で答えるパート以外はコンピュータによる採点 <話す・書く>ケンブリッジの評価基準の研修を受けた採点者が1つのタスク(問題)のみ採点する。採点結果をサンプル抽出し必要に応じてシニア採点者がチェックする質管理システム。 <評価基準>評価基準:(例)PET for Schools <書く>http://www.cambridgeenglish.org/images/168143-cambridge-english-preliminary-for-schools-teachers-handbook.pdf (22,27ページに評価基準あり) <話す>http://www.cambridgeenglish.org/images/168143-cambridge-english-preliminary-for-schools-teachers-handbook.pdf (48-52ページに評価基準あり)
実用英語技能検定	<聞く>ペーパー、CBT(PC) <話す>対面式面接、CBT(PC) <読む>ペーパー、CBT(PC) <書く>ペーパー [試験時間] 2級(CEFR: B1) 1時間47分、準2級(CEFR: A2) 1時間36分	<聞く・読む・書く>【一次試験】 ・2級～5級は全てマークシート形式 ・1級・準1級はマークシート形式+ライティングが記述形式 ※2016年度第一回から英検2級にライティング導入 <話す>【二次試験】 ・3級以上で面接方式	①1級から5級(7つの級)で合否による成績表示 ②(2015年度より)合否に加えて英検CSEスコア及び英検バンドも併記	<読む・聞く>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く>採点者が評価基準に基づいて評価 <評価基準>http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/criteria/
GTEC CBT	<聞く>CBT(PC) <話す>CBT(PC) <読む>CBT(PC) <書く>CBT(PC) [試験時間] 2時間55分 4技能すべてコンピュータで実施	<聞く>クリック形式による選択式 <話す>音声録音による発話式 <読む>クリック形式による選択式 <書く>キーボード入力による自由記述式	①トータルスコア 0～1400点 リーディング 0～350点 リスニング 0～350点 スピーキング 0～350点 ライティング 0～350点 ②独自のグレード(1～9)	<読む・聞く>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く>2名の採点者が評価基準に基づいて評価
GTEC for STUDENTS	<聞く>ペーパー <話す>タブレット端末 <読む>ペーパー <書く>ペーパー [試験時間] 1時間55分	<聞く>マークシート方式 <話す>音声録音による発話式(※<話す>は、オプション) <読む>マークシート方式 <書く>自由記述式	①トータルスコア 0～810点 リーディング 0～320点 リスニング 0～320点 (スピーキング 0～170点) ライティング 0～170点 ②独自のグレード(1～7)	<読む・聞く>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く>2名の採点者が評価基準に基づいて評価 ※評価基準:ライティングの採点基準については下記URL参照 (http://gtec.for-students.jp/product/pro_student.htm#writing)
IELTS	<聞く>ペーパー(記述式) <話す>面接(1対1) <読む>ペーパー(記述式) <書く>ペーパー(記述式) [試験時間] 約2時間59分	<聞く、読む>多肢選択&自由記述(設問による) <書く>ペーパーへ自由記述 <話す>1対1の面接方式(面接官は原則全員ネイティブ)	①総合スコアおよび各技能別スコア(総合も各技能とも1.0～9.0までの0.5刻み。1.0 = Non-user～9.0 = Expert user) ・読む 1.0～9.0点 ・聞く 1.0～9.0点 ・話す 1.0～9.0点 ・書く 1.0～9.0点 ・トータルスコア 1.0～9.0点	<読む・聞く>・研修を受けた採点者による採点 ・各40項目の正解数によってバンドスコアが決定 <話す・書く>資格を持ち、研修を受けた試験官1～4名により評価基準に基づいて評価 <評価基準> http://www.ielts.org/researchers/score_processing_and_reporting.aspx
TEAP	<聞く>ペーパー <話す>独自開発したSアプリを用いた面接 <読む>ペーパー <書く>ペーパー [試験時間] 3時間20分 ※2016年度よりTEAP CBT実施開始予定	<聞く、読む>多肢選択(マークシート)方式 <話す>1対1の面接方式 <書く>記述 ※<聞く/読む>、<聞く/読む/書く>でも受験可能	①各技能別スコア(各技能別とも20～100点) ・読む 20～100点 ・聞く 20～100点 ・話す 20～100点 ・書く 20～100点 ②CEFRレベルによる成績表示	<読む・聞く>マークシートに基づきコンピュータによる採点 <話す・書く>複数名の採点者が評価基準に基づいて評価 <評価基準:書く>http://www.eiken.or.jp/teap/construct/rating_crit.html <評価基準:話す>http://www.eiken.or.jp/teap/construct/sp_rating_crit.html
TOEFL (TOEFL iBT)	<聞く>CBT(PC) <話す>CBT(PC) <読む>CBT(PC) <書く>CBT(PC) [試験時間] 約4時間 4技能ともコンピュータで受験 インターネットを通じて問題が配信される形式はComputer-based Test(CBT)であるが、ETSの名称はiBT(Internet-based Test)	<聞く、読む>多肢選択 <話す>コンピューターへ録音 <書く>コンピューターで文章を入力 <話す><書く>の答案データはインターネットを通じてETSから採点者へ送られ採点が行われる。	①総合スコア(0～120点)および各技能別スコア(各技能とも0～30点) ・読む 0～30点 ・聞く 0～30点 ・話す 0～30点 ・書く 0～30点 ・トータルスコア 0～120点	<読む・聞く>コンピューターによる自動採点 <話す>複数の採点者が採点基準表に基づいて評価。採点基準は以下URL参照 https://www.ets.org/s/toefl/pdf/toefl_speaking_rubrics.pdf <書く>採点者とコンピューターによる自動採点。採点基準は以下URL参照 https://www.ets.org/s/toefl/pdf/toefl_writing_rubrics.pdf
TOEFL Junior Comprehensive	<聞く>CBT(PC) <話す>CBT(PC) <読む>CBT(PC) <書く>CBT(PC) [試験時間] 2時間14分 4技能すべてコンピュータで実施	<読む、聞く>多肢選択 <話す>コンピューターへ録音 <書く>コンピューターで文章を入力	①総合スコアおよび各技能別スコア ・読む 140～160点 ・聞く 140～160点 ・話す 0～16点 ・書く 0～16点 (2016年中に4技能均等配点に移行予定) ②トータルスコア 1～6 (それぞれのスコアを総合的に評価)	<読む/聞く>マークシート方式で回答、コンピュータによる採点。 <話す/書く>Online Network for Evaluation (ONE)に基づき、所定のトレーニングを終了した複数の査定員(レイター)によって採点。レイター間で誤差が発生した場合には、別途レイターを追加。Scoring Leaders, Content Scoring Leadersなどにより常に査定の基準がチェックされ、評価基準にブレがなく公平な評価が行われる。
TOEICテスト	<聞く>ペーパー <読む>ペーパー [試験時間] 2時間	<聞く>マークシート方式 <読む>マークシート方式	①総合スコアおよび各技能別スコア ・リスニングスコア5～495点 ・リーディングスコア5～495点 ・トータルスコア10～990点	<読む・聞く> マークシートに基づきコンピュータによる採点。常に評価基準を一定に保つためにスコアの同一化(Equating)と呼ばれる統計処理を行い算出
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	<話す>CBT(PC) <書く>CBT(PC) [試験時間] 1時間20分	<話す>コンピューターへ録音 <書く>コンピューターへ文章を入力	①各技能別スコア ・スピーキングスコア 0～200点 ・ライティングスコア 0～200点	<話す・書く>ルーブリックに基づき、採点の訓練を受けた複数の評価者が採点。ETSの統計の専門家がすべての採点結果を分析・検証。 評価基準: http://www.toeic.or.jp/library/toeic_data/sw/sampletest/pdf/sw_handbook.pdf

資料2 英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用について 基礎資料

試験名	結果再発行/学校からの問い合わせ等 ①再発行可能/不可能 ②スコア確認等、学校が問い合わせた場合の対応 ③試験結果の有効期限	調査・研究・その他		
		CEFRとの関係に関する研究 等	基準集団	ホームページのURL
Cambridge English ケンブリッジ英検	①破損や紛失時、条件により再発行可能。(有償、無償あり) 詳細 http://www.cambridgeenglish.org/jp/exams-and-qualifications/lost-certificates/ 大学等の申請が必要な場合は、セキュリティの高い試験結果検証サービス(オンライン)をご利用頂くことにより無償で正しい情報を大学と受験者両者に提供 ②問合せ窓口は受験時登録した試験センター。申請の際に受験者IDおよび暗証番号の申告があれば学校や大学はオンラインで直接試験結果の照合確認が可能 ③生涯有効。ただし、高等教育機関は独自に有効期間を定めていることが多いので、確認が必要	Cambridge English(ケンブリッジ英検)はCEFRと共に開発(部分的にはあるが、CEFRはCambridge Englishをベースに設計された経緯あり) 参照HP: http://www.cambridgeenglish.org/research-and-validation/fitness-for-purpose/	Cambridge EnglishとCEFRに関する研究・開発の過程で2001年にアイテムバンクを導入、その際は過去20年間分の受験者1,500万人分のデータを分析活用。 http://www.cambridgeenglish.org/images/126011-using-cefr-principles-of-good-practice.pdf (Section 3: Applying the CEFR in practice)CEFRとの関係: 開発者の一人であるブライアン・ノース博士の検証作業プロセスに関するコメント: 「(中略)CEF(ヨーロッパ共通参照枠)のレベルとケンブリッジ英検各試験のレベルの間に関連があるため、例外とされます」	www.cambridgeenglish.org/jp/ (日本語) www.cambridgeenglish.org/ (英語)
実用英語技能検定	①合格証書は、紛失による再発行はできないため、合格の証明が必要な方は、別途「合格証明書(有料)」をお申し込みいただく ②大学側から名前・TestID・生年月日の指定があれば、結果スコアを直送可能 ③留学に活用する目的の場合は、合格証明書発行日から数えて2年間と定める。ただし、留学の使用でなければ、取得した資格は半永久的	・英検Can-doリストとCEFRとの比較 ・専門家によって構成されるパネルを中心として、①Basket法(*1) ②Modified Angoff法(*2)を使用して検証 ・EALTA(欧州言語テスト・評価学会)エキスパート研究者との共同研究 ・他試験結果(TOEFL PBT,iBT等)との比較 http://www.eiken.or.jp/eiken/group/result/	延べ20,000人を超える1級から5級の合格者(合格直後)に対し、数回に渡る大規模アンケート調査を実施	https://www.eiken.or.jp/eiken/
GTEC CBT	①受験日より2年以内であれば再発行可能。各個人が1通1,080円(税込)にてマイページからの申し込み ②大学側から名前・TestID・生年月日の指定があれば、結果スコアを直送可能 ③有効期限は受験日から2年間	実際のGTEC CBT受験者によるCEFRレベル別Can-doアンケート結果により検証。※科学研究費補助金 基盤研究(A)「学習者コーパスによる英語CEFRレベル基準特性の特定と活用に関する総合的研究」における「CEFR-J研究開発チーム」の“CEFR-J”デスクリプタを用いて関連づけ調査を実施	大学生を中心に約1,000名程度を調査対象として実施。調査にあたっては、対象者全員がGTEC CBTを受検した上で左記アンケートに回答	http://www.benesse-gtec.com/cbt/
GTEC for STUDENTS	①スコアレポートに印字されているTest Dateから2年後の同月末まで再発行可能。受験者個人からの再発行依頼はなし。(学校を介して申し込み) ②大学への直送はなし ③有効期限はTest Dateから2年後の同月末まで	GTEC for STUDENTSとGTEC CBTのスコアの関連性を前提とし、上記研究内容と結び付けることにより検証。	GTEC CBTに準じる	http://gtec.for-students.jp/
IELTS	①再発行は本人の申請により、受験から2年以内であれば何通でも可能 ②教育機関はTRF Verification Serviceに加入することにより、オンラインにてその機関へのスコア提出を希望している受験者成績一覧を一括ダウンロードすることが可能。また、同じシステムを使い、スコアの真偽も確認可能 ③受験日から2年間	ケンブリッジ大学英語検定機構によるCEFR共同開発時のデータをもとにマッピング。テスト結果使用者等による関係者からのフィードバックをもとに検証 (参照1): 「IELTS, Cambridge ESOL examinations and the Common European Framework」 written by Lynda Taylor : http://www.cambridgeenglish.org/images/23135-research-notes-18.pdf (参照2): http://www.ielts.org/researchers/common_european_framework.aspx	1998年から継続的に様々な検証研究が行われている。IELTSのケンブリッジ英検との比較、IELTS受験者を対象に行うCan DO responseの研究などがある	http://www.eiken.or.jp/ielts/
TEAP	①スコアレポートの再発行を希望する場合は有償での発行となる ②大学への成績結果提供大学等が当テスト利用型入試を行い、受験者が当該大学等に出願した場合は、大学の要請により受験者の成績結果を提供する ③受験者が取得した成績結果は、当テストを受験した日の属する年度の翌年度末3月31日までを有効期限とし、これを過ぎた成績結果により大学へ出願した場合は無効となる。参照: 「TEAP受験規約」 http://www.eiken.or.jp/teap/apply/pdf/agreement.pdf	・Can-do アンケートによるCEFRとの比較 ・独立研究機関(CRELLA)との共同研究 ・他試験結果(TOEFL ITP,iBT等)との比較 http://www.eiken.or.jp/teap/group/report.html	数百名を超える高校生・大学1年生を対象に、大規模アンケート調査を実施	http://www.eiken.or.jp/teap/
TOEFL (TOEFL iBT)	①受験日から2年以内のスコアであれば再発行可能(有料) ②受験者はインターネット・FAX・郵送でETSに再発行手続きを行う Official Score Report: 受験者が申請すると、主催団体ETSから大学へ直接送付される Test Taker Score Report: 受験者が申請すると、ETSから受験者へ送付される 大学はインターネット上もしくは郵送されてきたOfficial Score Reportでスコアを確認する ③受験日から2年間有効	・ETSによる調査「Linking English-Language Test Scores Onto Common European Frame of Reference」 http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RR-08-34.pdf 「The Association between TOEFL iBT® Test Scores and the Common European Framework of Reference (CEFR) Levels」 http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb ・ETSにおけるTOEFLに関するリサーチ https://www.ets.org/toefl/research ・TOEFL iBTとCEFRのスコアマッピング https://www.ets.org/toefl/institutions/scores/compare/	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・5,000名以上のテスト受験者データを使用 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEFLスコアレベルに関するフィードバックも活用	ETSウェブサイト: http://www.ets.org/jp/toefl CIEEウェブサイト: http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html 学校・教育機関向けサイト: http://www.toefl-ibt.jp/
TOEFL Junior Comprehensive	①本人からの申請に基づき、受験から2年以内であれば再発行可能 ②本人からの申請に基づく弊社から学校へのスコア直送制度についても準備中 ③試験結果の有効期限は受験から2年以内	・Modified Angoff 法(*2)を使用。TOEFL Junior Standard(2技能試験)のマッピングスタディとTOEFL Junior Comprehensiveのマッピングスタディおよびそれぞれのスタディの調整研究を実施 ・15か国、18名の有識者による検討 参照HP: http://www.ets.org/toefl/junior/scores_research/standard/cefr/ http://www.etsglobal.org/content/download/14736/245545/version/1/file/TOEFL++Junior%2%AE++Comprehensive++CEFR+Mapping%E2%80%9393+MAR271-LR+(1).pdf	・TOEFL Junior Standard: 世界各国から8,529人 ・TOEFL Junior Comprehensives(TOEFL Junior Standardとの調整スタディを含む): 世界各国から1,000人	http://gc-t.jp
TOEICテスト	<公開テスト> 受験者からの依頼により試験日より2年以内の申請で再発行可能。 <IPテスト> 団体担当者からの依頼により解答用紙を採点した年度および翌年度4月1日から2年間の申請で再発行可能。	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・22名の有識者による検討 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用 参照HP: http://www.ets.org/s/toEIC/pdf/toEIC_cef_mapping_flyer.pdf	100,000名以上のテスト受験者データを使用	http://www.toEIC.or.jp/
TOEIC Speaking & Writing Tests (TOEIC S&Wテスト)	<公開テスト> 受験者からの依頼により試験日より2年以内の申請で再発行可能。 <IPテスト> 団体担当者からの依頼により解答用紙を採点した年度および翌年度4月1日から2年間の申請で再発行可能。	・Modified Angoff 法(*2)を使用 ・22名の有識者による検討 ・大学や英語教師からのCEFRレベルとTOEICスコアレベルに関するフィードバックも活用 参照HP: http://www.ets.org/s/toEIC/pdf/toEIC_cef_mapping_flyer.pdf	TOEIC S&Wテスト受験者データを使用	http://www.toEIC.or.jp/